

芸術科 美術 I シラバス

教科名	対象学科	学年	科目名	単位数	必修・選択
芸術	機械・電気・自動車・服飾・グラフィックアーツ	1・2	美術 I	2	必修
使用教科書	日本文教出版 高校美術 1	補助教材	参考作品・写真・映像		

1 科目の目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

2 学習上の留意点

- (1) 生徒は美術時間の約束ごとを守り、安全で快適な学習環境の中、活動が行われる。
- (2) 教師は常に机間巡視を行い、活動の段階に応じたアドバイスや実態に応じた教材の提供を行う。

3 評価の方法

- (1) 評価は3つの観点（①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度）に基づき、授業態度や出席状況、課題提出等を総合的に判断し、最終的な評価は学年末に A・B・C にて行う。
- (2) 観点別評価にて「評定 1 相当」の場合、追試、課題提出等の結果を判断して単位認定を行う。
- (3) 学年末において、所定の出席時数を満たさない場合は、科目履修の認定はできない。

4 学習計画

学期	月	時間	題 材	指導内容	備 考
1	4	2	(鑑賞) オリエンテーション	美術 I で学ぶこと。授業での注意事項。 発想力・構想力について考える。	教科書・筆記用具
	5	6	(絵画・彫刻) 似顔絵を描こう	人それぞれの顔の特徴を理解し、観察し修正することで描き表現することを理解する。	教科書・鉛筆・ワークシート
		2	(デザイン) 文字とデザイン	文字のデザインが日常生活に与える影響や効果について考える。	教科書・ワークシート
	6	6	(デザイン) シンボルマークとロゴタイプ	シンボルマークとロゴタイプが持つ機能を理解し、コミュニケーションツールとして使用する効果について学ぶ。	教科書・ワークシート・色鉛筆
		4	(デザイン) ゼンタングル基本	パターンの繰り返しでアートを楽しむ。鑑賞と自己評価。	ワークシート・画用紙・鉛筆・黒ペン
	7	4	(デザイン) ゼンタングル応用	ゼンタングル基本をふまえ、応用テクニックを取り入れ制作する。鑑賞と自己評価。	ワークシート・画用紙・鉛筆・黒ペン・色鉛筆

2	9	2	(絵画・表現) 様々な版画表現	印刷方法から分ける凸版、凹版、孔版、平版を中心に版画について学ぶ。	教科書・ワークシート
	10	10	(デザイン・表現) 版画(ステンシル)	版表現について理解を深め、孔版(ステンシル)の技法を使いトートバックへプリントを行う。鑑賞と自己評価。	教科書・ステンシルシート・ステンシルブラシ・染色用絵の具・スプレーのり・ワークシート
		14	(絵画・彫刻) 1点透視図法を使用した平面パース制作	普段生活している身近な環境を気づき、そして見直し。自己の思いや考えに向き合うことで、自己理解を深め、他者に伝える表現方法を身につける。	教科書・ワークシート 定規、コンパス、色鉛筆、画用紙
	12	2	(鑑賞) 画家について	DVD鑑賞を通して、モネ・マティス・ピカソ、ゴッホ等の絵描きを紹介する。	教科書・ワークシート・DVD
		4	(映像メディア表現) 日常を撮る写真表現	写真表現の特性を考える。撮影目的を意識して写真を撮ることを考える。	教科書・ワークシート・カメラ
3	1	8	(絵画・彫刻) 繰り返す図案(オリジナル手ぬぐいづくり)	オリジナル消しゴムスタンプを制作し、そのスタンプを使って手ぬぐいを制作する。繰り返すデザインと手ぬぐい全体の図案を考える。鑑賞と自己評価。	さらし・ワークシート・消しゴムスタンプ制作セット・布用スタンプインク等
	2	4	(絵画) 愛着のあるものを描こう	身近な題材に目を向け、制作意図を振り返り描く。	教科書・画用紙・鉛筆
	3	2	(鑑賞) 1年間のまとめ	1年間の作品を振り返り、学んだことを整理し、美術について理解が深まるようにする。	教科書・ワークシート

「美術Ⅱ」シラバス

教科名	対象学科	学年	科目名	単位数	必修・選択
芸術	グラフィックアート	3	美術Ⅱ	2	必修
使用教科書	日本文教出版 高校美術2		補助教材	参考作品・写真・映像	

1 科目の目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

2 学習上の留意点

- (1) 生徒は美術時間の約束ごとを守り、安全で快適な学習環境の中、活動が行われる
- (2) 教師は常に机間巡視を行い、活動の段階に応じたアドバイスや実態に応じた教材の提供を行う

3 評価の方法

- (1) 評価は4つの観点（①関心・意欲・態度②思考・判断③技能・表現④知識・理解）に基づき、授業態度や出席状況、課題提出等を総合的に判断し、最終的な評価は学年末に5段階評価で行う。
- (2) 成績不良評価「1」の場合、追試、課題レポート提出等の結果を判断して単位認定を行う。
- (3) 学年末において、所定の出席時数を満たさない場合は、科目履修の認定はできない。

4 学習計画

学期	月	時間	題材	指導内容	備考
1	4	2	(鑑賞) オリエンテーション	美術Ⅱで学ぶこと。授業での注意事項。 発想力・構想力について考える。	教科書・筆記用具
	5	6	(デザイン) 文字を書こう(レタリング)	レタリングの基本書体、「明朝体」「ゴシック体」 を忠実に描き、その技術の習得を目指す。	教科書・鉛筆・ワークシート・ポスターカラー・絵筆
	6	6	(デザイン) キャラクターを考える	キャラクターデザインを基に、デザインの本質 を学び、考え、オリジナルキャラクターの制作 を行う。	鉛筆・ワークシート・色鉛筆
	6	6	(デザイン) 素材を考えてつくる 木材でつくる小物	それぞれの素材には、特徴があり、特性がある。 素材の特性を考え、制作することを学ぶ。 木材加工を行い、木材の特性を知る。	ワークシート・木材チップ・ヤスリ・のこぎり
	7	4	(映像メディア表現) 写真表現の様々な形	自分で撮った写真と異素材とのコラージュで 自己の内面を表現する。鑑賞と評価。	教科書・カメラ・プリンター・ワークシート
2	9	10	(絵画・鑑賞) 色彩による表現	切り紙絵の制作を通して、色彩と構図(レイアウト) について学ぶ。鑑賞と評価。	教科書・ワークシート・色紙・のり・はさみ・画用紙
	10	10	(デザイン・鑑賞) ストーリーとデザイン	話の内容や絵だけではなくデザインによって 読者の興味を引くにはどのような方法がある のかを考える。共同で紙芝居を制作。発表と鑑	教科書・ワークシート・イラストボードB4
	11				

2	12			賞。	
		8	(絵画・鑑賞) 水を描く	生活と深い関わりのある「水」。しかし「水」にわ様々表情がある。「水」に対するイメージをふくらませ描いてみよう。	教科書・ワークシート・画用紙・着彩用具
3	1	8	(デザイン) 革で制作する。 (キーホルダー作り)	革という素材にふれ、加工方法と制作の知識を学ぶ。	教科書・ワークシート・キーホルダーキット・着色用具・刻印
		2	4	(鑑賞) 建築家のいない家	世界では場所によって家作りが違うことを知る。未来の家のスケッチを考える。
	3	4	(デザイン・表現) 希望をかたちに	グラフィックデザインについて学び、かたちとして他者に伝えることを学ぶ。	教科書・ワークシート
		2	(鑑賞) 1年間のまとめ	1年間の作品を振り返り、学んだことを整理し、美術について理解が深まるようにする。	画用紙・ワークシート

「音楽 I」シラバス

「音楽 I」では、芸術の幅広い教育活動を通して生涯に亘り芸術(音楽)を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め芸術(音楽)の諸能力を伸ばし、また豊かな情操を養うことを目標とし、歌唱、器楽、創作、鑑賞を総合的に学習していく。

1 履修にかかわること

単位数	2	学年	3	対象	全学科(機・自・電・GA・FD)	履修区分	選択
-----	---	----	---	----	------------------	------	----

2 使用する主な教材

教科書	高校生の音楽1(教育芸術社)
授業での配布物	観賞用プリント、資料プリント(補足資料等)

3 主な学習内容と目標

音楽の幅広い教育活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を育成する。

4 年間の学習計画等

学期	学習項目	月	学習内容	備考
1 学期	表現(歌唱・楽器) ・校歌(斉唱) 「翼をください」 「少年時代」 「ビリーブ」 「夢路より」 「マイウエイ」 ・キーボードの構成 鑑賞 「マリアカラス」	4 月 5 月 7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・校歌を元気よく、のびのびと歌う。 ・歌詞とメロディーを確実に覚える。 ・それぞれの曲の特徴をつかむ。 ・外国語の雰囲気を感じながら歌う。 ・発音について理解し、複式呼吸法で歌う。 ・何度も歌うことで、歌詞や音程を覚える。 ・キーボード(鍵盤楽器)に慣れ親しむ。 ・世界最高のソプラノ歌手マリアカラスについて学ぶ。 ・オペラの世界と作品について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱試験 一人で皆の前での歌唱 実技試験を実施する。 ・ビデオ視聴 ・感想文の提出
	評価方法(①～③を総合的に判断して評価する) ① 歌唱試験(2回実施、自由曲・課題曲) ② 課題(選択形式・記述形式)の提出 ③ 授業への出席、学習活動への参加状況			

学期	学習項目	月	学習内容	備考
2 学期	鑑賞 「モーツァルト」	9 月 ～ 1 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・モーツァルトの渉外と作品について学ぶ。 ・ドイツ、イタリアの曲を歌う。 ・ドイツ、イタリアの曲を通し、異国の文化や風土への興味・関心を育てる。 ・有名なテノール歌手のカンツォーネを聞き比べる。 ・沖縄の方言による歌詞と琉球音階のメロディーを覚える。 ・今までの高校生活を思い起こし、事態県と重ね合わせ、感情を想起させる。 ・リズム感を養う。 ・リズムを刻めるようにする。 ・8ビート、16ビート等、いろいろなリズムを打てるようにする。 ・何度も繰り返す事でリズムを覚え、刻めるようにする。 ・リストの生涯と作品について学ぶ。 ・ピアノの名手、フジ子ヘミングの演奏する「ラ・カンパネッラ」を鑑賞する。 	学期末 考査
	表現(歌唱・楽器) 「野ばら」ウエルナー作曲 「野ばら」シューベルト作曲 「帰れソレントへ」 「オーソレ・ミオ」 「サンタルチア」 沖縄の歌 卒業の歌 打楽器			
評価方法(①～③を総合的に判断して評価する) ① 歌唱試験(2回実施、自由曲・課題曲) ② 課題(選択形式・記述形式)の提出 ③ 授業への出席、学習活動への参加状況				
3 学期	鑑賞 映画「タップ」 ベートベン 「交響曲第5番」 「交響曲第9番」	1 月 ～ 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ベートーヴェンの生涯と作品触れ、慣れ親しむ。 	学年 末 考 査
	評価方法(①～③を総合的に判断して評価する) ① 歌唱試験(2回実施、自由曲・課題曲) ② 課題(選択形式・記述形式)の提出 ③ 授業への出席、学習活動への参加状況			